

令和4年度 1号認定児募集 説明資料

社会福祉法人 種の会
ななこども園 園長 守田直美

法人の沿革

- 法人名：社会福祉法人 種の会 <https://tanenokai.ed.jp/>
- 法人本部：はっところども園（神戸市灘区麻耶海岸通2-3-14）
- 理事長：片山雄基

関西

はっところども園	（神戸市）	定員105名
なかはらこども園	（神戸市）	定員151名
ななこども園	（藤井寺市）	定員135名
エールこども園	（寝屋川市）	定員220名
だいな幼児園	（神戸市）	定員50名
天王寺保育園	（天王寺区）	定員100名

関東

つどいの森もみの木保育園	（横浜市）	定員70名
みやざき保育園	（川崎市）	定員155名
世田谷はっところども園	（世田谷区）	定員153名
アルテ子どもと木幼保園	（中野区）	定員99名

児童館・小規模事業

はらだ乳児園	（神戸市）	定員12名
なのは乳児園	（神戸市）	定員12名
元町はっところども園	（神戸市）	定員12名
なぎさ児童館	（神戸市）	学童定員150名
神戸市立原田児童館・稗田学童保育コーナー		
稗田学童保育コーナー分室・灘の浜学童保育コーナー		

ななこども園の概要

- 大阪府認可保育園 平成22年4月開園（藤井寺市民間移管園）
- 平成28年4月に幼保連携型認定こども園に移行
- 定員（135名）1号認定15名、2・3号認定120名
- 0歳児6名、1歳児18名、2歳児18名、3歳児27名、4歳児30名、5歳児30名
- 敷地面積：1432.82㎡ 園舎 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造2階
- 休日 12月29日～1月3日、日祝、1号認定児：土日祝、夏期、冬期、春期休暇
- 開園時間 7時00分～19時30分（朝30分、夕方1時間30分は延長保育）
- 職員配置 園長1名、主幹保育教諭2名、保育教諭22名、主幹栄養教諭1名、調理員4名、看護師1名、事務員1名、学校医1名、学校歯科医1名、学校薬剤師1名、用務員1名、保育教諭外2名 合計38名
- 子育て支援事業
 - 子育て相談事業 毎週木曜（午前中）
 - わんぱく広場 毎月第3木曜日（10時～11時頃）
 - 園庭開放 毎週木曜日（10時～11時30分）
 - 子育て支援連携事業「ゆったりユックリ」毎週土曜日（10時～15時）

創始理念

子どもの立場を尊重し、新しいかかわり
（「大人と子ども」「大人どうし」「子どもどうし」の
関係性の再構築を創造するための施設にする

運営理念

みんなでみんなをみていく園づくり

—私たちスタッフ一人ひとりが作り手です—

- 「みんなで、みていく」とは、

こども園の職員だけでなく、地域ボランティア、学生ボランティア、専門機関など、子どもに関わる人の輪を広げる実践を意味します。

- 「みんなを、みていく」とは、

園児だけでなく、地域の子育て家庭全般に広げて、関わる内容（関係性）を深めていく実践を意味します。

- 「みんなで、みんなを、みていく」とは、

人の輪を広げ、関わる内容（関係性）を深める手立てや方法に対して、専門性を追求する実践で、これによって、こども園の社会的価値を高めます。

保育・教育方針

保育・教育方針

- 丈夫な子どもに育てます。（心身の健康と食育）
- ていねいに関わります。（情緒の安定と自立への援助）
- 子どもと遊びます。（生きている喜びと社会への信頼）

保護者対応方針

- 親の気持ちに共感できる心を鍛えます。（カウンセリングマインド）
- 家庭の事情に応じた最大限の対応をします。（多様なニーズに応える）
- 保護者同士の良好な関係づくりを援助します。（基本ルール&マナー）

地域の子育て支援方針

- 地域の状況に即した子育て応援プログラムを作ります。
- 地域の他の団体、協議会と連携します。
- 保幼小中の連絡会を活性化する要になります。

保育目標

一人ひとりが個人として尊重され、生活の主人公になると同時に、人と人とが関わり合い、ともに生活や活動をし、みんなが楽しくおもしろいと思えるような生活を、自分たちの力で作り出していくこと

保育の中で大切にしていきたいこと

- 五感（視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚）をつかって好奇心（興味・関心）や探求心をはたらかせて、「遊ぶ」「試す」「繰り返す」こと。
- この豊富な経験の「種類」と経験の「量」を大切に。
- 本物（自然物や素材など）に触れることと、ファンタジー（空想）の世界を大切に。
- 小さなつまづきや失敗、挑戦できるような環境（園庭）や機会（体育あそび）を通して、心身を育てていきます。
- 給食・おやつは「みんなで食べる」たのしさと、個々のペースや嗜好（好き・苦手）を尊重します。

園運営（保護者対応）で大切にしていること

- 保護者の方への伝達事項を徹底します（怪我、トラブル、体調の変化、特別な配慮が必要な場合など）
- 怪我やトラブルでは、起きた事実を正しくお伝えし、該当する保護者双方ににお伝えします。
- その際、原因はすべて園であり園の責任であることを前提に「謝罪」します。
- その上で、保護者同士で「大丈夫でしたか？」「お大事にしてくださいね」などの声の掛け合いをお願いしています。
- また、起きたことに対して「どうしたかったのか（理由や意思）」「なぜそうなったのか（原因）」「次はどうすればいいのか（対策）」などを、子どもたちともよく話し合い、安全に対する認識や相手の気持ちを考える機会として（場合によってはクラス全体で）話をしていきます。
- また、そのようないきさつや話の内容（お互いの気持ちも含めて）を、できるだけ保護者の方にもお伝えし、お子様自身のこと、クラスの友達のこと、クラスとしての取り組みなどについても、理解を深め、共有することができればと考えています。

なのの保育で大切にしている 「グループ」や「話し合い」について

- 『グループ』は、グループをつくることが目的ではありません。グループがあることで、自分の居場所があり、友達（仲間）の存在を意識するようになり、かかわりあいが生まれます。子ども同士でかかわりあって、自分を出したり、共感したり、ぶつかり合ったりしながら、生活や遊びを共にすることで、人に対する愛着や信頼、面白さ、自分らしさや自分の役割などを学んでいく場やきっかけとなります。
- 『話し合い』は、お互いの気持ちや考えを出し合って確かめ合うことです。そして自分や他者について理解を深めていくことです。保育者は言葉に置き換えたり、代弁したり、問いかけたりしながら、少人数やグループでの話し合いの場を設けて、どの子の想いや気持ちもみんなにとって大切にできるようにかかわっていきます。

プロジェクト・アプローチ（プロジェクト型保育）

- 子どもが中心となって保育者と子ども同士が話し合い、保育をすすめていくこと
- こどもの気づき・興味・関心に基づいたトピックから様々な遊びと活動を関連付けたカリキュラム

子どもたちが示す興味や疑問、問いかけ、また保育者が子どもたちに取り組みたい事柄を「トピック」として、保育者がそれをまとめて「テーマ」を設け、その中で内容が相互に関連付けられ、ある活動が次の活動をどんどん誘発し、保育が展開されていく。そこに子どもたちの深い「学び」や「育ち」が保障されるというカリキュラムです。

そのトピックの関係性を保育者たちがまとめたものが、各クラスで紹介されている「トピック・ウェブ」（期案）であり、活動や遊びの記録を写真や文章でまとめ、子どもや保育者が保育の振り返りに活用するのが「ドキュメンテーション」です。

主な活動

- 体育あそび（毎週火曜日）体育講師による体育指導（サーキット運動）
- リズム
- ふれあいゲーム
- 園外保育（散歩）
- フリーデイ（コーナー・ゾーン保育）異年齢活動
- 和太鼓（5歳児）
- クッキング
- 制作・絵画活動
- プロジェクト活動
- 地域交流
- 課外教室（ECC英会話教室：土曜日午後）

「モノ」との出会い



「コト」との出会い



「ヒト」との出会い



主な行事

入園式（4月）



春の遠足（5月）



お泊り保育（5歳児）6月



流しそうめん（7月）



ななまつり（9月）



運動会（10月）



秋の遠足



ふじねっと



焼き芋大会



二上山登山 (5歳児)



もちつき



クリスマス会



節分



劇あそび



卒園式



その他

- 保育参加（個人懇談）
- 全体懇談会（4月）
- クラス懇談会（4月・2月）
- 園庭開放
- わんぱく広場